

一般財団法人 島根県水泳連盟 競泳委員会
島根県代表選手団 選考基準（案）

平成30年4月1日

第73回国民体育大会水泳競技大会(福井国体) 競泳及びオープンウォータースイミング

1. 国民体育大会島根県予選会の希望する種目に参加していること。(リレー種目も同様)
2. 参加標準記録を突破した選手の中より選考する。
3. 該当年度、4月1日より、下記競技大会終了までの期間で出場した長水路公認大会で参加標準記録を突破した場合、上位記録より選考対象とする。
 - ・中学生は、島根県中学校水泳競技大会
 - ・高校生は、中国地域高等学校選手権水泳競技大会
 - ・成年は、国民体育大会島根県予選会
4. 選考順位は、国民体育大会島根県予選会(決勝)の記録を最優先する。
5. 上記、選考基準にて選考してもなお出場者が8名に満たない場合は、国体出場8名枠(男・女 各4名)を採用する。(ただし、男女どちらかが5名以上になった場合は不採用)8名枠の選考方法は、国民体育大会島根県予選会(決勝)での記録が、国体参加標準記録対比(%)で上位の選手を選考対象とする。

成年(男女)選手については、8名枠選考の対象外とする。
6. リレー種目(少年男・女)の選考については下記の通りとする。(平成28年度～平成30年度)
 - ①個人種目参加者(標準記録突破者・8名枠参加者)以外では、男女各5名以内とする。
 - ②選考順位は、国民体育大会島根県予選会(決勝)での該当種目、区分での上位4名とする。
 - ③前年度国体の各リレー種目の最下位タイムを突破しなければならない。

最下位タイムを突破するリレー種目が複数あり、男女各5名以内の枠を超える場合は、前年度国体の該当リレー種目の予選8位タイムを基礎タイムとし、それに対する上位チームから選考する。
 - ④リレー種目選考メンバーの個人記録は4月1日より、下記競技大会終了までの期間で出場した長水路公認大会での最上位記録とする。
 - ・中学生は、島根県中学校水泳競技大会
 - ・高校生は、中国地域高等学校選手権水泳競技大会
 - ・リレー種目での第1泳者の正式時間も選考の対象とする。
 - ⑤各リレー種目の上位4名の中に、個人種目参加者を起用する場合がある。
7. リレー種目(成年男・女)の選考については下記の通りとする。(平成28年度～平成30年度)
 - ①前年度国体の各リレー種目の予選8位のタイムを突破しなければならない。
8. オープンウォータースイミング競技(平成28年度より正式種目)の選考については下記の通りとする。
 - ①国体予選会の選考対象種目に参加し、標準記録を突破した最上位選手を選考する。

男子 1500m自由形 17分00秒00(長水路) 16分45秒00(短水路)

女子 800m自由形 9分40秒00(長水路) 9分30秒00(短水路)

②国体予選会(長水路)に於いて標準記録を突破する者がいなかった場合に限り、
短水路記録を参考とし選考する場合がある。(4月1日から国体予選会までとする)

③選考枠 男子1名 女子1名(ともに成年、少年共通)

8. 国体予選会に特別理由(大学での重要な大会)により参加出来ない成年については、
競泳委員長宛に文書で許可申請を提出すること。(国体予選会申込締切日までに)
9. 監督(男・女)については、競泳委員長が推薦し、選手選考会議(競泳委員会)で決定
する。いずれも有資格者(コーチ、教師、指導員)であること。
支援コーチについては、上記監督とは別に出場選手の指導者を派遣する場合がある。
シャペロン(女性スタッフ)を派遣する場合がある。
競泳委員長を別途、派遣する場合がある。
大会総務(事務局)を参加させる場合がある。
10. 上記選考に加え、各選手の普段の生活態度(挨拶等の礼儀、学習意欲、行動力)と
練習状況(合宿参加、取組む姿勢、努力、忍耐等)も選考の補助資料とする。
*各種大会参加時における代表選手として模範となる態度、行動等